

# 廣川書店、HP受注で成果

## 8割超の書店が移行

### システムYAMATOが協力

廣川書店は1月に自社のホームページから書店注文を受注するシステムを導入、このほど多くの書店がそれに対応して発注していることが検証された。同社には大学テキストとして採用される薬学書を中心に、毎年約100書店から注文があるが、8割以上の書店が電話やファックスから移行してホームページから発注している。このシステムを開発したシステムYAMATOでは、出版社の人件費や作業効率の改善を目指して、出版社200社への導入目標に促進していきたくと話している。

廣川書店はこれまで書店や大学生協からの注文は電話やファックスで、取次会社からの注文は短冊などで在庫、献本管理を行っていた。採用品の受発注については、出版VANなどの電子受発注のインフラはなく、手作業で行われていたが、自社ホームページから受注

できるようなにした。当初、書店や取次会社がこれに対応するかが懸念されたが、毎年実績のある多くの書店が準じて応えたことで「ダブル受注」などのミスも軽減した。また、早い時期から受注できるため、新学期に合わせて増刷準備に余裕ができたという。

出庫する物流会社の富樫梱包との連携もスムーズになり、あらゆる面で効率化されたようだ。書店側でも、画面上で書籍の基本情報や在庫の有無を確認でき、注文後にはすぐに確認メールも送られる。昼夜を問わず発注できることもメリットである。

廣川書店には、まだ一部の書店や取次会社で電話や短冊などの注文もあるが、今後は一般書や読者への直販でも同様の措置をとっていく方針。同社が導入したのはシステムYAMATOが開発したクラウド出版社管理システム「NOWorksJ」。すでに中山書店や塙書房、御茶の水書房、水王舎など10社が導入し、自社ホームページからの受注体制を整えている。また、注文のほか、近刊予約や読者への直接販売もできる機能をもつ。